



Y.Machida

サマーマイルシリーズ

THE KEISEI HAI
AUTUMN HANDICAP

第69回 京成杯オータムハンデキャップ (GIII)

1着 賞金 41,000,000円
2着 賞金 16,000,000円
3着 賞金 10,000,000円
4着 賞金 6,200,000円
5着 賞金 4,100,000円
付加賞 567,000円 162,000円 81,000円



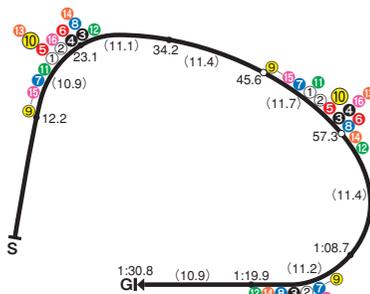
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、2023.9.9以降2024.9.1まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

2024.9.8 中山 晴・良 芝1600m (国際) (特指)

順位	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600%)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑩	アスコリビチエーノ	牝	3	55.5	C.ルメール	1:30.8	9-9-8	32.7	480(±0)	1.5(1)	黒岩陽一(美浦)	113
2	⑤	タイムトゥヘヴン	牡	6	56	柴田善臣	1¼	15-15-14	32.4	492(+4)	161.8(⑩)	戸田博文(美浦)	107
3	⑧	サンライズロナウド	牡	5	56	横山典弘	アタマ	2-3-4	33.4	468(-4)	10.7(3)	安田翔伍(栗東)	107
4	⑬	セルバーク	牡	5	57	武 豊	1¾	9-5-4	33.4	434(±0)	34.7(9)	鈴木孝志(栗東)	105
5	⑪	ジューンオレンジ	牝	4	53	富田 暁	アタマ	13-12-11	32.9	454(±0)	88.7(⑩)	長谷川浩大(栗東)	105
6	④	ディオ	牡	5	57.5	岩田康誠	¾	5-5-4	33.5	492(+2)	6.0(2)	辻野泰之(栗東)	105
7	②	ディスベランツァ	牡	3	55	石川裕紀人	¾	7-11-11	33.4	518(+4)	15.7(8)	吉岡辰弥(栗東)	105
8	①	カテドラル	牡	8	58	荻野 極	クビ	9-12-11	33.3	490(±0)	195.8(⑩)	池添 学(栗東)	105
9	③	キャットファイト	牝	3	52	大野拓弥	クビ	2-5-8	33.9	458(+20)	14.1(4)	上原博之(美浦)	105
9	⑨	オーキッドロマンス	牡	3	56	内田博幸	同着	1-1-1	34.4	490(+4)	33.8(3)	手塚貴久(美浦)	105
11	⑥	エエヤン	牡	4	57.5	田辺裕信	¾	5-3-2	34.1	490(+12)	14.9(9)	伊藤大士(美浦)	105
12	⑦	ショウナンマグマ	牡	5	57	吉田 豊	1	9-9-8	33.9	518(+2)	93.0(⑩)	尾関知人(美浦)	105
13	⑦	キタウイング	牝	4	52	篠 弘人	2	14-14-14	33.8	450(+10)	130.3(⑩)	小島茂之(美浦)	105
14	⑩	エアファンディタ	牡	7	58	三浦皇成	¾	16-16-16	33.3	470(+10)	136.9(⑩)	池添 学(栗東)	105
15	⑥	コラソニート	牝	3	54	丹内祐次	1¼	7-5-4	34.8	460(+6)	19.0(7)	加藤士輝八(美浦)	105
16	⑭	ドルチェモア	牡	4	55	北村友一	6	2-2-3	36.1	470(-4)	231.3(⑩)	高橋一哉(栗東)	105

単勝⑩150円(1¼) 複勝⑩110円(1¼) ⑬1510円(13¼) ⑧250円(3¼) 枠連⑤-⑧920円(4¼)
馬連⑩-⑬13,740円(30¼) ワイド⑩-⑬3,610円(30¼) ⑥-⑩380円(2¼) ⑧-⑬14,650円(70¼)
馬単⑩-⑬15,690円(33¼) 3連複⑧-⑩-⑬35,250円(80¼) 3連単⑩-⑬⑧160,680円(350¼)
5重勝①④⑤⑦⑩429,290円(1,058票) 対象競走: 中山9R / 中京10R / 中山10R / 中京11R / 中山11R



通過タイム: 600% 800% 1000% 上り: 800% 600%
34.2 - 45.6 - 57.3 45.2 - 33.5

アラカルト

- ・C.ルメール騎手はミッキーグローリーで制した18年に続く京成杯オータムH2勝目。JRA重賞は本年4勝目、通算151勝目
- ・黒岩陽一調教師は京成杯オータムH初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算8勝目
- ・ダイワメジャー産駒はJRA重賞通算54勝目
- ・3歳馬の勝利は16年ロードクエストに続く通算14回目
- ・牝馬の勝利は20年トロワゼトワルに続く通算20回目
- ・単勝150円は同式別における本競走の最低払戻金額。また、ワイド14,650円は最高払戻金額
- ・非抽選馬 2頭(グラニット、ペラジオソノドラブ)

アスコリピチェーノ *Ascoli Piceno*

牝 黒鹿毛 2021.2.24生
 北海道安平町 ノーザンファーム生産
 馬主・(有)サンデーレーシング 美浦・黒岩陽一厩舎
 馬名意味・イタリアの都市名

リッスンIRE系 F9-b

ダイワメジャー 栗毛 2001	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛 1986	Halo Wishing Well
	スカーレットブーケ 栗毛 1988	ノーザンテストCAN スカーレットインクUSA
アスコルティ 黒鹿毛 2011	Danehill Dancer 鹿毛 1993	Danehill Mira Adonde
		Sadler's Wells Brigid
	リッスンIRE 鹿毛 2005	

5代までのインブリード：Northern Dancer S4×M4×M5

INTERVIEW

東谷智司 厩舎長(ノーザンファーム空港)

海外でも力を出し切ってもらいたいです

NHKマイルCのあと、調整先であるノーザンファーム天栄に行く機会がありました。その時は疲れこそ残っていたものの、そこから一気に良化して、いい状態でレースに臨めると黒岩調教師からも聞いていました。ここまでの状態に仕上げてくれた黒岩調教師や厩舎の皆さん、そして天栄のスタッフには感謝がありません。海外でも自分の力を出し切ってもらいたいです。

M. Yamada



古馬混合のハンデ戦、中山コースも初めてと、散見された未知の要素も多かった問題としなかつた本馬。レース後、陣営はオーストラリアの高額賞金競走・ゴールデンイーグルへ遠征させる意向を表明した。桜花賞は3/4馬身差の2着、直線で行き場を失う不利が響いたNHKマイルCも2着と、悔しい足踏みを重ねた春の軌道を修正。威厳を示した2歳女王はこの秋、赤道を越えて新たな頂に挑む。

父ダイワメジャー

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央、首28戦9勝(皐月賞^{G1}、天皇賞(秋)^{G1}、マイルチャンピオンシップ^{G1}2回、安田記念^{G1}、毎日王冠^{Gn}、マイラーズC^{Gn})、最優秀短距離馬2回、08年から供用、15年日本2歳リーディングサイヤー〔代表産駒〕**レーヌミノル**(桜花賞^{G1})、**アドマイヤマーズ**(香港マイル^{G1}、朝日杯フューチュリティS^{G1}、NHKマイルC^{G1})、**メジャーエンブレム**(NHKマイルC^{G1}、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1})、**コバノリチャード**(高松宮記念^{G1})、**セリフォス**(マイルチャンピオンシップ^{G1})、**カレンブラックヒル**(NHKマイルC^{G1})、**レシステンシア**(阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1})、**アスコリピチェーノ**(本馬)、**ダブルメジャー** Double Major(ロワイヤルオーク賞・仏^{G1})、**ブルドッグボス**(JBCスプリント^{JnI})、**ノーヴァレンダ**(全日本2歳優駿^{JnI})、**ミスバンテール**(阪神牝馬S^{Gn})、**ダイワマジジョーレ**(京王杯スプリングC^{Gn})、**エビセアローム**(セントウルS^{Gn})、他に重賞勝ち馬多数

母アスコルティ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 持込 中央9戦2勝
 アストンクリントン(17 牡父ハーツクライ)中央3戦1勝
アスコルターレ(18 牡父ドウラメンテ)中央16戦3勝(マーガレットS・L、もみじS^{Op})、障害1戦0勝
 (19 牡父ハーツクライ)
 アスコルティアーム(20 牡父キタサンブラック)中央8戦4勝(センテナリアルパークS)⑧
アスコリピチェーノ 本馬(21 牝父ダイワメジャー)中央6戦4勝(阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1}、京成杯オータムH^{Gn}、新潟2歳S^{Gn}、桜花賞^{G1}2着、NHKマイルC^{G1}2着)獲得総賞金263,215,000円
 コンサートマスター(22 牡父サトノダイヤモンド)⑧
 (23 牝父キタサンブラック)
 (24 牝父コントレイル)

祖母リッスンIRE

愛、英2勝(フィリーズマイル・英^{G1}、バランシーンS・愛L、モイグレアスタッドS・愛^{G1}2着、デビュータントS・愛^{G2}2着)、11年輸入、**タッチングスピーチ**(ローズS^{Gn}、京都記念^{Gn}2着、エリザベス女王杯^{G1}3着)、**サトノルクス**(すみれS・L、菊花賞^{G1}2着、セントライト記念^{Gn}2着)、**ミスタージューシー** ⑧(若葉S・L)、**ムーヴザワールド**(琵琶湖特別、共同通信杯^{Gn}3着、東京スポーツ杯2歳S^{Gn}3着)の母、**キングスレイン**(叫田特別、百日草特別、ホープフルS^{G1}3着)の祖母

世界への一歩を踏み出す勝利

実績馬には敬遠されがちなハンデ戦とあって、G1ウイナーの勝利は2008年のキストウヘヴンが最後、3歳牝馬の優勝も1985年のエルプスを最後に途絶えていた京成杯オータムHだが、今年の脚光は昨年の2歳女王アスコリピチエーノが独占。通算5戦3勝、GI2着2回と10割の連対率を誇る3歳牝馬が単勝1・5倍と圧倒的な支持を集めた。55・5匹のハンデを課された同馬は初めて顔を合わせた古馬勢をアッサリと一蹴。ゴールの先に見据える大目標に向けて、順調な一歩を踏み出した。

逃げたいタイプが揃って注目された主導権争いだが、3歳馬オーキッド口

マンズが手綱を押しして先手を主張すると他馬は控え、意外にすんなりと決着。それでも開幕過らしい速いラップが刻まれていくなか、3番人気に支持された阪急杯の3着馬サンライズロナウドは意欲的に好位を確保し、流れに乗る。米子S、関屋記念と続けて2着に食い込み、サマーマイルシリーズの王座を窺うデイオは中団の内を追走。アスコリピチエーノのC・ルメール騎手はこれを見る形で直後の外を進んだ。

懸命に逃げ粘るオーキッド口マンズを、背後の内々で脚を溜めていたサンライズロナウドがかわした直線の坂下。そこへ段違いの脚色で襲い掛かってきたのがアスコリピチエーノだった。4

コーナーから徐々に間合いを詰め、前を射程に収めて向いた直線では目を見張る勢いで急伸。坂の上りで先頭に躍り出ると、後方2番手から2着に追い込んだタイムトゥヘヴンを尻目に悠々とゴールを駆け抜けた。